

陸上運動部部便り

2008年7月号

四大戦

目次

1	四大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	13
2	2008年度部内5傑 2008.6.15 現在	16
3	自己記録更新者一覧 2008.6.2~6.15	18
4	主務より	18
4.1	応援OB・OG紹介	18
4.2	OB戦について	18
4.3	行事予定	18
4.4	連絡先(慶弔等)	18

1 四大戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

男女とも復調の兆しを得る

男子第33回、女子第14回となる国立四大学対校戦は快晴強風の中、正田醤油スタジアム群馬(旧称：敷島競技場)で行われました。

故障者も多くが復帰し、現時点でのベストメンバーでエントリーしたものの、2週前の国公立での東学大との力の差、群大・埼大のエースクラスの関東インカレでの実戦での強さを考えると、本学は力を出しつくさないと楽な試合にはならないという覚悟も持っていました。それでも、この4週間で3戦目となる過密スケジュールの最後で気温の高いコンディションにも恵まれ最後は収穫ある結果にしたいと、いつも以上

に記録にも執着するように試合前に確認し試合に臨みました。

最初の種目の男女4継で、男子は今季初の42”台を、女子も念願の52”台をマークし、それなりに良い雰囲気が始まります。序盤で走高跳が専門の小福田(4年)が400mで49”98をマークしたり、1500mでも竹俣(2年)が終始勝ちを意識した展開で最後の競合いも踏ん張り2位、また、スプリントに強い埼大に対校得点で追い抜かれた中、苦戦も覚悟した800mで渡邊(2年)・坂井(3年)が見事なレースを見せ接戦をものにし、坂井が1’58”32の自己新で優勝、渡邊も力を発揮し3位をとり対校得点争いの2位は確保し、最後は竹俣が5000mでも勝負強さを見せつけ本格的な復調を印象付けるなどポイントになる局面で活躍が見られました。

フィールドは、ここいらで本領を發揮して欲しかったエース級の選手が無難な内容で終わってしまい不本意でしたが、小福田が400mを走った後の本職走高跳で1m85まで良い跳躍を見せたり、砲丸投の北川(4年)が朝の地震の影響(注1)で電車が遅れるなど、アップなしで出場するも10mは投げて3位を取り、混成の原(2年)が2種目で自己記録更新など中位の選手は結果をだしました。

女子も800mで日下(3年)が1周目は我慢し、550mから一気にいく見事なレースで、埼大のインカレ選手を置き去りにし優勝を果たし、楠木(3年)もやり投・砲丸投で得点を挙げ、昨年の総合3点からは進歩の総合6点獲得で、質量ともに圧倒的に勝る3大学を相手にそれなりの手応えは得たと思います。

男子はトラック52点フィールド42点で計94点の総合2位で東学大の143点にははるかに及ばないものの、個人優勝も3つ(800m,5000mと

谷(3年)のやり投)とり、優勝種目のなかった国公立に比べ、雰囲気も良く終わりました。また純短系は参考記録だらけながら、力強さが出てきたことも幸いです。

七大戦まで、あと7週も間が開きますが、まだ残る数名の故障者の復帰を期待しつつ、やっと取り戻してきた「やれそうだ」という気分をもっと盛り上げながら、再度短期の強化期間を経て、七大戦を迎えたいと思います。

変わらぬご支援・ご指導をお願い申し上げます。

注1 当日6月14日は岩手、宮城で震度6強を記録した岩手内陸部震源の地震の影響で在来線や新幹線に遅れや運休が生じていた。

1.2 主将の言葉

主将 尾崎翔

七大前最後の対校戦となった四大戦。この試合において、目標は七大への良い流れを作ることでした。かといって「七大戦優勝」が現在の部の目標である以上、この大会だけの結果にとられすぎて調整をしまくるということも奨励されていないという、ある意味では非常に難しい位置づけの試合だったと思います。このような試合では、個々人がいかに考えて試合までの流れを作るかで結果の良し悪しが決まってきます。既に七大で個人として戦うことのみを見据えることができるレベルの人は完全に通過点として捉え、今シーズンいまひとつの人や七大戦に向けて少しでも良い「結果」を出しておきたい人はその人なりにしっかり調整していくということが求められます。

そういう意味で、エースクラスは調整していない中でしっかりと良い動きをして次につながる試合運びを見せてくれましたし、準エースクラスは七大で互角以上に戦えるのではないかと期待をもたらせてくれました。とりわけ七大では苦しいと思われていたトラック種目で追い風ながら好記録が続出し、勝負の面でも格上の選手を圧倒し続けたのは収穫です。

95点で2位という結果だけを見ると例年通りながらも、例年以上に次につながる試合が出来たのではないかと考えています。そしてその次こそが、我々が現在目標としている七大であり、

ここで優勝するためにここからの7週間練習していくことになります。この、優勝という目標が実際に手に届くための練習をしていかななくてはなりません。肉体的な意味でつらい7週間となるとは思いますが、部員一同この目標に向かって一丸となっていきたいと思いますので、あたたいご声援宜しく願います。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

四大戦は強風がホームストレートを吹き抜けるものの、高温快晴の良いコンディションの中行われました。四大戦は女子の対校種目に普段はない200mや三段跳があるなど種目数が異常に多く、人数の少ない東大勢にとっては厳しい大会です。それに加えて女子は3点制で行われるということもあり、チームの総合順位よりも、七大戦で自分が勝負する種目でいかに得点できるかを重視して大会に臨みました。結果としては、なかなか得点できず、計6点の総合4位で、七大学の選手に匹敵する相手と勝負できるレベルに達していないことを重く受け止めております。しかしながら、4×100mRで52"78を出すなど、全体的には調子が上がってきていると感じさせる内容でした。これから約一か月しっかり練習を積めば、七大戦では各個人種目とりレーで得点できるだけのパフォーマンスが期待できそうです。

また、今季、国公立戦、四大戦と短距離、跳躍種目を引っ張ってくださった院生の堀越さんが、今大会をもって対校戦からは退かれます。堀越さんには、競技で学部生を刺激していただくと共に、日頃から激励、指導もいただき、本当に感謝しています。これからは直接点数を取ることはできませんが、女子チームの強力なサポーターとしてお力添えいただきたいと思います。そして学部生一同気持ちを新たに、七大戦に向けて取り組んでいきますので、これからも温かいご指導、ご声援をよろしく願います。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子4×100mR 決勝

4レーンに中嶋(3年)-福田(4年)-都井(3年)-尾崎(4年)の走順で出場。四大戦最初のトラック種目。チームに勢いをつけられるか。

スタートダッシュが武器の中嶋だが、いつもは号砲と同時に生み出されるその爆発力が、ここでは見られない。一瞬のうちに、前を行く群大に離され、後ろを走る埼大に差を縮められてしまった。後半50mでは粘りを見せ、2走の福田にバトンをつなぐ。4大学のエースが集う、向かい風吹くバックストレートで、差は広がり、内側の走者を追うという展開に。福田にとって苦しい100mとなった。3走都井とのバトンパスもかなり詰まり気味となり、さらに差が開く。都井の華麗なコーナーワークをもってしても、前を行く3大学を射程圏内に収められない。だが、そのままアンカーの尾崎にバトンが渡ろうとしたとき、幸運にも、東学大のバトンが3走の手に握られたままテイクオーバーゾーンの外に。並走する残り2大学に追いつけば一気に1位争いに絡めるが、1秒の距離をなかなか埋めることはできず、42"97の3位でゴール。辛くも2点を獲得した。

この今季最高記録を、8月にはどれだけ更新できるだろうか。チームの総合力が問われるリレー。残り1ヶ月半、各選手が調子を上げ、チームの結束を強め、仙台で本来の力を見せつけてほしい。

10:10 女子4×100mR 決勝

5レーンに清水(3年)-堀越(D3)-高山(2年)-大久保(3年)の走順で出場。今大会女子最初の対校種目であるため、勢いをつける意味でも頑張ってもらいたい。

号砲が鳴り、清水はまずまずのスタート。東学大が少しリードするも他大とはほぼ横一線である。堀越にバトンがつながると、強い向かい風のためか、他大エースとの実力差のためか、大き

く遅れる。その後、3走高山が追うも差はつまずかず、4位でバトンパス。アンカーの大久保は追い風に乗って、群大との差を縮める。応援する部員からは交わしたようにも見えたが、100分の1秒届かず、52"78の4位でフィニッシュ。

52"台が出たことはひとつの成果ではあるが、院生の堀越を起用して、最下位だったということは、関東地区で戦っていくにあたり、まだ力不足とも言える。七大戦では52"あたりがポイント獲得圏内であるから、学部生のみで52"というタイムをまずは目標にリレーチームを仕上げしてほしい。

10:20 男子3000mSC 決勝

梶井(4年)、庄司(2年)の出場。梶井にとっては2年ぶりの3000mSCであり、そのときの自己ベスト10'31"04を、走力のついた今どれだけ更新できるのか期待される。一方で庄司は今季3000mSCの自己ベストを2度更新し、持ちタイムを10'15"35まで上げるなど、調子は良い。快晴だが、風の強いコンディションの中でのレースとなった。スタート後から割とばらけて、大きな集団を形成することなくレースは進む。梶井は序盤は2番手につけるものの、少し位置を下げ、庄司と同じく4,5番手につけて1000mを3'11"で通過する。その後、庄司は前にいた東学大の山口を追い越すが、逆に後ろにつかれてしまう。一方、梶井はその2人についていくことができない。2000mの手前で庄司は山口に抜かれるがついていけず、また梶井も一つ順位を落とし、2000mを庄司が6'37"、梶井が6'44"で通過した。その後、庄司はゴール前で後ろの選手に追い詰められたが振り切って、10'09"03の4位でゴール。梶井は10'17"67の6位でゴールした。

ここでの東大の得点は4点であったが、両選手とも自己ベストを更新し、次につながる結果となった。しかし、9分

台を出さなければ勝負ができないので、今後は更なる記録の向上と勝負への絡みに期待したい。

10:40 男子 400m 決勝

3レーンに梶岡(4年)、8レーンに小福田(4年)が出場。

この日のレースのために前日はわざわざ前橋でシングルルームに宿泊した梶岡はスタートから快調にとぼすがバックストレートで強烈な向かい風にあおられて上体が起き上がってしまう。そのためだろうか、追い風になるホームストレートでもキレがなく51"16の5位でフィニッシュ。一応セカンドベストであった。

今シーズン400mに関しては納得のいく結果の出せていなかった小福田は本来高跳びの選手である。直前の慌ただししい補欠入れ替えに動じることもなく49"98の自己ベスト及び初の49"台を叩き出して周囲をあっという間に驚かせる。五月の記録会では52"42だったのだから驚異的な伸びをみせてきた。

400系の選手のお株を奪う好走をみせた小福田だが、このままでは決して終わらせないと雪辱を誓う400mの選手も少なくはない。今後の彼らの勝負にも注目してもらいたい。

11:00 男子 1500m 決勝

石川(3年)、竹俣(2年)の出場。石川は本来出場を予定していた割沢(6年)の体調不良により、大会4日前に急遽出場することに決定。いかに気持ちを高めてレースに集中できるかが鍵となる。竹俣は大学初の1500mレースが対校戦になった上に、この後に5000mの対校を控えているという状況ではあるが、積極的に攻めてほしい。

スタート後、集団のままレースは進み、両選手とも集団の中程につける。300mを過ぎたあたりで竹俣が2番手、石川は6番手の位置に移るが、依然集団のままレースは展開する。ところが、1

周目の通過が67"と落ち着いた入りであるにもかかわらず、650m辺りから石川は集団から徐々に離れていき、苦しい走りとなってしまふ。そのまま一人旅になってしまい、4'26"58の7位でゴールした。一方、竹俣は2番手の良い位置をキープしたまま、800mを2'14"、1000mを2'51"で通過する。ラスト1周となったところで先頭集団にいた5選手がスパートをかけ始めるが、これも決定的なものにはならない。最後の直線まで集団は崩れなかったが、最後に埼大の桶田が鋭い切り替えを見せ優勝。桶田には離されたものの、群馬大の選手と競り合いながら4'07"46で2位でゴールした。

竹俣は初めての2種目出場へのプレッシャーにも打ち克って2位という結果を残し、しっかりと役割を果たしてくれた。さらにスピードとレースへの対応力を伸ばせば、七大戦での活躍も期待できるであろう。石川は急遽出場が決まったこともあってか、調子を上げることが出来ず不本意な結果となってしまった。竹俣は長距離のエースとしての期待もあるため、今回の結果は石川を始めとする中距離パートの1500系の底上げの必要性を再認識させられるものとなった。七大での奮起を期待しよう。

11:20 女子 1500m 決勝

鈴木(1年)の出場。1500mは大学初レースとなる。上州特有の風が強く吹き付けているが、空は晴れわたり絶好のコンディションである。好走を期待したい。

号砲が鳴る。ペースはそれほど早くなく、鈴木もしっかり集団に付いていく。しかし、200mを過ぎたところでピストル音。戸惑いながら選手たちが走りを止める。なんと、計時が動かなかったため、再レースをすることになってしまった。再レースはスタート地点に戻ってから5分後。過酷な状況を冷静

に受け止め、もう一度スタートにつく。そして、再レースのスタート。200 mも走って消耗した体力を懸念してか、スタート直後は、先ほど以上のスローペースで全員で集団となり、300mを63"で通過する。しかし400 mすぎで東学大の選手がペースを上げると、周りの選手は食らいついていこうとするが、鈴木はこのペースアップに付いていけず、離れてしまう。その後は一人旅となり苦しい走りとなった。400 mごとのラップは300 mから700 mは84"で粘ったものの、700 mから1100 mは97"、1100 mから1500 mは101"と大幅ダウンしてしまった。鈴木の前にはいた選手もペースが落ちてきてはいたのだが、捕えることはできず5'46"44の6位でゴールした。

再レースという厳しい状況ではあったが、もう少し上のタイムが期待されていただけにやや残念な結果であった。フォームは美しいので、体力さえつければ勝負はできると思われる。七大戦では3000 mでの勝負になるが、一橋戦では1500 mでの出場となるため、その時には大幅自己ベストを期待したい。

11:30 男子110mH 決勝

8レーンに尾崎(4年)、3レーンに酒谷(2年)の出場。関東インカレでは走幅跳に集中するためにこの種目を欠場したエース尾崎、そして同じく関東インカレでベストを叩き出している新鋭酒谷の対決に注目が集まる。

直近の試合では酒谷に軍配が上がっていたが、この日はスタートから尾崎が対決を終始リードする形となり15"30の4位でフィニッシュ。「後半スタミナがなかった」という言葉通り、春先の怪我以来あまり走りこめてはいなかった尾崎には幅跳びの助走だけでなく110mHを完走できるだけのスタミナを蓄え直して七大戦に望んでもらいたい。一方、酒谷は1台目を越えた際に一瞬バランスを崩すがその後なんとか立て

直して15"68の8位でフィニッシュ。「こんなにタイムが出てると思わなかった」とは本人の感想だが、この日の醤油スタジアムは群馬らしく強風が吹き荒れるコンディションでこのときは追い風4.3mであった。

11:45 女子100mH 決勝

6レーンに大久保(3年)が出場。大学に入ってから初の100mHであり、誰もが我が耳を疑った大久保の出場。ふだん練習している姿を一切見かけないが、そんな周囲の不安とは裏腹に本人は自信のある様子である。

スタートから横一線で飛びだすと1台目の障害をスルー。2台目は逆足で跳ぶといういわゆるインターバル4歩の走法で器用さを見せる。しかし、台数を数えるうちに地力の差が表れてきて17"44の4位でフィニッシュ、このときは追い風3.4mであった。

高校時代からのハードルへの思いを滔々と語ってくれた大久保。日頃の練習からハードルへの愛情を示してもらいたい。

11:55 男子5000mW 決勝

北沢(4年)、和田(4年)の出場。両選手とも、関東インカレの後調子が上がってこないのが不安材料であるが、なんとか良い順位を狙っていきたいところ。レースは東学大の山口と村上、埼大の今川の3選手が序盤から早いペースで歩くが、東大の両選手は後半のことを考えて前半を慎重なペースで入り、2000mを9'40"程度で通過する。その後、和田は前を追って行くもなかなか差が縮まらない。次第にペースが落ちてしまうが、しっかり最後まで粘って歩き切り24'46"28の4位でゴール。一方、北沢は苦手な暑さのためフォームをまとめるのに苦労し、2600mまでに警告を2回出されてしまう。失格を避けるためにペースを落として慎重に歩くが、それでも後ろの選手に追い越されることなく歩き切り、25'07"04の5

位でゴール。5000mWの自己ベストを更新した。

調子が悪い中で本来の力が発揮できなかったが、両選手合わせて5点を取り、対校選手としての役割をしっかりと果たした。今回のレースを分析し、今後につなげてゆくことを期待したい。

12:25 男子 100m 決勝

2レーンに福田(4年)、7レーンに都井(3年)の出場。定刻より少し遅れてのスタートとなった。気温は午後を過ぎてますます高くなり、強風がスタートからゴールに向かって吹く。好タイムが期待されるコンディションが果たして吉と出るのか、凶と出るのか。2人とも近時の対抗戦では極めて好調であり、朝一番に行われたリレーの鬱憤を晴らしたいところである。

号砲とともに都井が前に出る。スタートで周囲から一歩抜け出したかのように見えた都井だが加速段階で追い風に乗り切る事ができず、中盤、周りに追い上げられる。一方の福田は、ややスタートで遅れをとるも、40m過ぎからの伸びが良い。結局福田が都井に並び、抜き去ってそのままフィニッシュ。結果は福田が11"01で4位。都井は11"09で6位だった。風は3.7mで公認記録とはならなかったが次に繋がる良い走りを見せたと言えるだろう。10秒台の自己ベストを持つ拝島・兵頭の復調や中嶋以下中堅選手の奮起次第では、七大戦に向け盤石の布陣となることだろう。

12:35 女子 100m 決勝

3レーンに清水(3年)、8レーンに堀越(D3)の出場。久しぶりに晴れて、気持ちのよい天候であったが強風が吹き荒れており、走りにくいコンディションであった。今回走る二人は女子4×100mRにも出場しており、そこでベストを記録していたので、この100mのレースも期待できる。

清水はスタート直後から両隣の選手に

置いていかれ、少し硬い、力の入った走りとなってしまった。中盤何とかくらいついていくが、それでも差を縮めるには至らず最後には力尽きてしまう。一方堀越もまずまずのスタートを切るが、そこから思うように伸びずると他の選手に置いていかれてしまう。結局、清水は13"29の7位、堀越は13"16の6位でゴール。このときの風は追い風7.2mであった。

今大会は強い追い風で短距離種目は参考ではあるが好記録が多くマークされていた。その中で両選手とも少し力みがあったように思う。二人はこの後200mにも出場するので、そちらも頑張してほしいと思う。

12:45 男子 400mH 決勝

5レーンに門脇(4年)、1レーンに酒谷(2年)の出場。土壇場で補欠入れ替えとなり急遽出場の決まった門脇であるが、この種目は7年目のベテランである。落ちつきのある走りが期待される。一方の酒谷は、レース展開に落ちていて対応したいところ。

門脇は1台目のハードルをサクッと越えて調子の良さをうかがわせる。一方の酒谷は国公立戦の反省を踏まえ、かなり慎重な入りで後方から状況を窺う。ハードリングの面では経験の力を見せる門脇であったが、インターバルで遅れを取り、バックストレートでじりじりと後退。200m通過時点で集団と2人の差が大きく開く。ここで最後尾の酒谷が慌ててピッチを変えるが、後半も伸びのある集団になかなか食らいつく事ができない。10台目を8番目に跳び越えると最後の45mで門脇をかわすのが精一杯となり、58"67の7位でフィニッシュ。門脇は結局最後までスピードを上げきる事ができず、59"24の8位でフィニッシュした。

自己ベストプラスアルファが求められる状況において、完全に展開負けする結果となってしまった。二人とも経験

のある選手だが、駆け引きという点においてはまだまだ改善の余地があると見られる。七大戦までに立て直しを期待したい。

13:10 男子 800m 決勝

坂井(3年)、渡邊(2年)の出場。2人とも2週間前の国公立戦では、坂井は転倒、渡邊は予選落ちと、悔しい思いをしているだけに、それを払拭するような走りを期待したい。

号砲が鳴ると、坂井は積極的な飛び出しを見せて、2,3番手につける。それに対して、渡邊は最初はゆっくり入って、集団の外側、5,6番手につける。1周目は200mの通過が28"、400mの通過が59"と一定の落ちついたペースを刻む。動きがあったのは500m前後。位置を前方にあげるべく、渡邊が前に出る。だが、スパートといった速さではなく、後ろからスピードを上げた坂井が先頭へ躍り出る。そこから先頭は入れ替わることなくラストの直線へと入る。ここから本来ならば渡邊得意のスパートが炸裂するところなのだが、強い向かい風の吹くバックストレートで前に出たことで体力を消耗したのか動きにキレがない。対して、長めの距離の練習をしてきた坂井が粘りを見せて、後続を引き離し、1'58"32の1位でゴール。渡邊は何とか粘りを見せ、東学大の選手との3位争いを制して1'59"04の3位でゴールした。

自らレースを動かし、積極的に早めのスパートをかけた坂井の勝負力が光ったレースであった。坂井自身初の対校レースでの優勝、さらに自己ベスト更新を果たすというすばらしい勝利であった。渡邊も数日前に風邪をひいたもののよく粘ったことで、800mで10点を獲得し、中距離の層が徐々に厚くなってきていることを実感させた。七大戦では坂井、渡邊に川口(3年)を加えた3本柱を決勝の舞台に送りこみ、大量得点を狙いたい。

13:30 女子 800m 決勝

2レーンに日下(3年)の出場。気温が高く、風も強いなかのレースであった。東学大は関カレーヤーを使っておらず、日下の実力からすれば上位入賞が期待できる。

一番インレーンに入れたこともあり、ほかの大学の選手の様子を冷静に見ながらスタートした。アウトレーンから埼大の二人が来るものの、オープンレーンになったところで減速したため、自ら先頭に立ち、そのままほかの選手を引っ張る形で一周目を走る。400mの通過は70秒。風が強いので他の選手にうまく風よけとして使われてしまっているのかと思われたが、500m過ぎで埼大の選手と二人になり、後続との差がついた。そのままペースを落とさず、勢いよくホームストレートに帰ってきた。ラスト100mでスパートがかかり、ほかの選手を引き離し、ぐんぐんリードを広げる。外側から群大が上がってくるものの差は縮まらず、5mほどの差をつけたまま2'20"99の1位でゴールした。この結果本学は3点を獲得した。

前回の国公立戦での消極的なレース展開に対する反省を活かし、今回の試合では、始終積極的なレースを展開して見事優勝することができた。この風の強い中でのシーズンベストは七大戦での活躍を予感させる。七大戦で400mと合わせての出場となるが、今回のような積極的な走りがかねてからのライバルである名大と北大の選手に食らいついてほしい。

男女とも、「これぞ800」と監督が評したレースを制することが出来た。この勢いで七大戦でも活躍してもらいたい。

13:40 男子 200m 決勝

3レーンに舩島(1年)、8レーンに福田(4年)の出場。強風が続いており、公認記録になる見込みはないが、格上の相手に風の力を利用しスピードに上手

く乗り点数争い加わりたい。

福田はスタートから積極的に突っ込んで行く。コーナーを抜けた後も優勝した埼玉大の選手と競り粘る。後半の粘りで福田は22"09の2位でゴールした。一方の舩島はいつもの通り前半を抑えめに走り7位でコーナーを抜ける。ラスト100mも前を抜くことは出来ず22"76の7位でのゴールとなった。このとき風は追い風3.8mであった。

強い追い風のため公認記録とはならなかったが良い経験となったのではないだろうか。福田は積極的な走りをしたことが評価されるし、舩島は風の助けで自己記録に少しでも近い記録で走れたことはブランクを埋める契機となるだろう。今後の活躍が期待される。

13:55 女子200m 決勝

3レーンに清水(3年)、5レーンに堀越(5年目)が出場。醤油スタジアムは高速トラックである。

今回が最後の対校戦になるという堀越、スタートから気合の走りを見せるが勝負からは取り残されてしまう。ホームストレートでも追い風に乗り切れず27"52の5位でフィニッシュ。一方、堀越の出場でモチベーションが上がったという清水は27"74の6位でフィニッシュ。終盤堀越を追い上げるが今一步届かなかった。

このときは追い風5.0mであり、さらに高速トラックという点を考慮しても記録に物足りなさを感じてしまう。勝負から取り残されて硬くなってしまったのだろうか、安定した力を発揮してもらいたいものがある。

14:00 男子5000m 決勝

山崎(3年)、竹俣(2年)の出場。山崎は1週間前から調子が落ち気味なのが気にかかる。一方、竹俣は1500mに続き大学初の1試合2種目出場となるが、ここは東大のエースとして踏ん張って欲しいところ。

快晴で気温が高く、時折強風が吹くというコンディションの中、号砲が鳴った。1000m、2000mの通過がそれぞれ3'24"、6'47"とかなりスローペースになる中、竹俣は集団の2番手、山崎は集団後方につけて前を窺う。2000m過ぎで一度ペースが上がるが、依然として一つの集団のまま3000mを通過。その後も、度々先頭が入れ替わるが、ペースは上がりきらない。だが、4000m手前で群大の小杉がペースアップしたところでようやく集団が崩れた。その後、東学大の斉藤が先頭に立って後続との差を広げ始めるが、ただ一人竹俣がこれに喰らい付き、勝負は二人の一騎打ちになる。竹俣はラスト1周手前でトップに出てスパート。そのままラスト1000mを2'45"で駆け抜け、16'01"63で優勝。1500mと合わせて11点を獲得する、大車輪の活躍を見せた。山崎は後半のペースアップに対応することが出来ず、16'30"19の7位に終わった。竹俣はこの調子で七大戦での活躍が期待される。山崎は残念な結果に終わったが、気を取り直して七大戦に向けて調子を取り戻して欲しい。

15:00 女子3000m 決勝

鈴木(1年)の出場。気温は28℃。バックストレートの向かい風が非常に厄介な気象条件であった。他校の選手にはなかなかの実力者が揃うので自分のペースを保つのが難しく、1500mに続く2種目ということで疲労や体力面での不安がある。しかし、前回の雨の中の国公立戦よりはまだ気象条件がよいこともあり、自己ベストの更新が期待される。

予想通り東学大と群大の選手がスタートから飛び出し、1周目を82"というハイペースで通過する。鈴木自身も最後尾ながら85"と前回同様速い入りとなった。しかし、やはり2種目目であることによる疲労やオーバーペースが災いして600m過ぎから一人旅とな

ってしまう。前回の国公立戦と同様、1000mを3'45"で通過するも、その後は非常に苦しくなり400mラップも110"まで落ち込んでしまう。それでもこれ以上はラップタイムを落とすことはなく、ラスト400mはややペースを上げ12'50"39の6位でゴール。自己ベスト更新はならなかった。

試合のレベルが高いということもあったが、現時点での実力不足が露呈されてしまった。しかし、1年生ということで七大戦前に一つでもレース経験を増やすことができたという点で有意義なレースであった。これから七大戦に向けては、ペース走やインターバルなどの本格的な練習も取り入れ、中長部員でサポートしながら実力アップを図りたい。

15:15 男子4×400mR 決勝

6レーンに小福田(4年)-梶岡(4年)-舩島(1年)-深澤(4年)の走順で出場。小福田は跳躍の選手ながらこの日400mの対校レースに出場し、バックストレートに強風吹き荒れる中、49"98というそれまでのベストを大きく上回る好記録を叩き出している。国公立戦でもマイルの1走を務めており、その時の好走も記憶に新しい。今回もトップで2走の梶岡にバトンを渡すことが大きく期待される。梶岡も400mの対校レースで51"16という自己ベストの51"09に迫る好記録を出しており、調子の良さが伺える。舩島は200mの対校レースで、追い風参考ながらも22"76で走っており、受験のブランクから着実に調子を取り戻している。深澤は体調不良のため、個人の対校レースを棄権し、マイルリレーも棄権する予定であったが、人員不足ということで急遽、出場となった。

号砲が鳴る。小福田はフラットレースで見せた様に、前半から積極的な走りを見せる。バックストレートで吹き荒れる向い風などものともせず、ぐいぐ

いとスピードを上げ、一つアウトレーンの選手を200m地点で抜き去った。後半はややつらそうに見えるも、スピードにそれほどの落ちはなく、東学大と並んでのトップで梶岡にバトンを渡す。梶岡はバトンを受け取るとスムーズに加速、オープンになったところでトップに躍り出て、軽やかな走りでもバックストレートを抜ける。このまま3走にバトンを渡すかと期待されたが、2走という区間は各大学のエースが走っていることもあり、300mを超えたあたりからの東学大、群大の選手のラストスパートが著しい。梶岡は粘るも、舩島へとバトンをつないだ時は3位へと順位を落としていた。舩島は、いつも通りの前方を窺いながらの落ち着いた走りでも2位の群大について行く。そしてラストの100mで一気に身上のスパート、前の群大を抜き去って2位で4走深澤へとバトンを渡す。しかしバトンパスでまごついてしまい、深澤が走り出したときは群大に先行されてしまっていた。深澤は、力強い走りでもバックストレートで群大の選手を抜き、トップの東学大に追いつこうと力走する。しかし、体調不良の影響や突然の出場決定のためのアップ不足などがたたき、走りにはキレがないようである。前半力んでしまったため後半苦しい走りとなり、ラストの直線で失速、群大に追い抜かれてしまい、3'23"31の3位でゴール。このタイムは今期のチームベストであった。

舩島の調子がまだ完全には戻っていないことや深澤の体調不良を考えると、タイムが伸びる余地はまだ残されている。これからの1ヶ月半、最後の追い込みを行って、七大戦では3'20"を切ることが期待される。

フィールド

10:00 男子棒高跳 決勝

大谷(4年)、土居(1年)の出場。時折

横風や、バーが落ちる程の強い追い風が吹く中、バックストレート側にて競技が行われた。

土居は怪我の影響で練習が不足しており、記録を残すために2m80から試技を開始、短助走でこれを越えた。その後、3m00、3m20をパスし、3m40の跳躍。1跳目は余裕をもってバーを越えたが、クリアしたポールが風で押し戻され、バーを落としてしまう。2跳目は体がバーにかすってしまい失敗。3跳目は助走が悪く、体がバーを全く越えず失敗。ここで試技を終えた。土居は、助走が毎回安定せず、まだまだいい跳躍ができてはいないが、今回は怖気づかずにある程度高さのあるグリップで突っ込めたことが収穫であった。大谷は、関東インカレ前からの肉離れが治ったばかりであり、本来の15ftではなく14ftのポールで挑んだ。大谷は余裕をもって3m60から試技を開始。クリアの際に体が横に流れながらも、1跳目で余裕のクリア。続く3m80、4m00も、助走に勢いがなく、クリアランスが横に流れながらも1跳目でクリアした。その後の4m20は、14ftのポールでは高さが足りず、1跳目、2跳目共に横からバーに当たり失敗、3跳目はバーの下をくぐってしまい、競技を終了した。

大谷は、ブランク明けで空中動作の勘が鈍っており、感覚を取り戻すことがこれからの課題だろう。しかし、不調中でも4m00は確実に越えてくるところは流石だ。結局、大谷が4m00で3位、土居が2m80で6位となった。七大会に向けて、両者ともに本来の跳躍を取り戻し、更なるレベルアップが必要だろう。

10:00 男子走幅跳 決勝

尾崎(4年)、武安(4年)の出場。強い日差しと吹き荒れる風の中で競技は行われた。両者ともに競技前には丹念に足合わせを行っていた。

尾崎は強い追い風の中1跳目と3跳目をファールで逃すも、2跳目で6m96を跳ぶ。武安は1跳目で6m96を記録するが、2跳目以降6m台後半の跳躍が続き記録を伸ばせない。尾崎は時間の重なった110mHに出場しながらも、5跳目で7m33の大ジャンプ。結果、尾崎が7m33の2位、武安が6m96の4位に終わり、合計8点を獲得した。今大会通じて選手を悩ませた強風であったが、百戦錬磨のこの2選手は上手く追い風とすることが出来たようだ。記録的にはもう少し伸ばせる余地はあったかもしれないが、この競技だけで我が校に8点をもたらすという素晴らしい戦いぶりは、この後の競技において選手たちの背中を追い風以上に強く押し出すこととなった。

10:00 女子走幅跳 決勝

堀越(D3)と高山(2年)の出場。堀越は国公立戦以降、助走イメージを練り直してきており、対校選手として最後の試合であるこの四大戦に臨んだ。高山は体調に不安があったものの、徐々に走力が戻ってきており、どれほど踏切動作を行えるかが注目された。強い追い風が吹き荒れていたが、直前の4×100mリレーで念願の52秒台を出したこともあり、この勢いに乗ってよい跳躍ができるのではないかと両者に期待が高まる。

堀越は、1跳目からリズムよく加速していき、4m81を記録する。続く2跳目ではうまく踏切を合わせ、4m91と久しぶりに4m90台を記録する。以降、風もあり、助走がうまく合わなくなってしまったが、2跳目に記録した4m91で4位であった。高山は1跳目がファールであったが、追い風にうまく乗り、2跳目に4m54を記録、3跳目に4m56と伸ばすと4跳目に4m67を記録し、この記録で6位であった。

堀越は助走の組み立てについて試行錯誤が続くが、この冬で走力・筋力とも

に上がっており、今後の試合での大幅な自己記録更新が期待できる。高山は、記録は低調であったが、6本とも安定した試技を行うことができたので、踏切感覚を取り戻し、七大戦に向けて調子を上げていくことが期待される。

10:00 男子ハンマー投 決勝

寺島(3年)、千葉(2年)の出場。風が強かったものの、よく晴れ、そして何よりハンマー投げがメイン競技場で開催されるということで、寺島を中心に興奮気味になる。

その寺島だが、1投目を投げたあたりでふくらはぎを痛め、踏ん張りがきかない。本来の投擲ができず37m51で5位と不本意な結果におわった。千葉は七大戦に向け4回転に挑戦するが、練習投擲は全てファールと不安が残る。だが1投目に崩れながらも30m55とベストを更新する。しかしその後はファールを連発。6投目の30m67で7位だった。

この種目東大は2点。七大戦までにはまだ時間があるだけに、しっかり修正して行ってほしいところである。

11:30 男子砲丸投 決勝

北川(4年)、原(2年)の出場。

天候には恵まれていたが、強風であり、多少投げにくかったと思われる。

埼大が一人棄権して対校は7人の出場であった。記録では北川は3番目であり得点が期待された。1投目で北川は10m越え、原は9m越えて調子はよいようだったが、北川は左大腿部を痛めているようで、記録が伸びず、3投目まででなんとか3番目。原は自己ベストの9m26を3投目に投げるが、7番で3投目終了。4投目以降は2人とも疲れたか、記録を伸ばすことができず、結局北川は10m18でかろうじて3位(3位~6位までは15cm差)、原は9m26で7位だった。

北川は調子を取り戻しつつあり、原も

順調に記録が伸びてきているので、今後期待したい。

10:15 女子砲丸投 決勝

楠木(3年)の出場。

日差しが強いが気温は高過ぎず、投擲では好記録が期待される環境での試合となった。楠木は今季初めて専門種目の砲丸投で対校戦に臨むこともあり、ますます気合が入る。ところが、1投目から振るわず7m15であった。2投目では7m55を投げ何とか立て直すかと思われたが、3投目ではタイミングを外した。焦りを抑え後半の3投に臨み、4投目で7m台後半を投げるも踏み止まれずファールしてしまう。残り2投でも苦境を覆すことができず、結局自己記録に遠く及ばない7m55の3位であった。

練習不足、調整不足が目立ち、初試合から残念な結果となった。楠木が七大戦で得点するためには自己記録以上が必要となるだけに、大いに反省して、残り1ヶ月半で調整し、七大戦では昨年の京大戦を超える投げを見せてほしい。

12:30 男子走高跳 決勝

小福田(4年)、荒井(3年)の出場。小福田は技術練習で調子を上げていたものの、直前の400mのレース後に足を攣り、不安を抱えての試合となった。荒井も技術練習で調子は上向きであった。強い風が吹き荒れ、風でバーが落ちてしまうほどの悪条件であった。

荒井は1m55から開始。この高さをバーにかすってしまうものの1回で成功させる。続く1m60では体が浮かず1、2跳目を失敗してしまう。3跳目は合ったものの、バーに足が当たってしまい、結果1m55で5位であった。小福田は1m70から開始。足に不安はあったものの、この高さを1回で成功させる。足の回復を確認した小福田は1m75をパスし、1m80に挑戦する。1跳目はうまく踏み切れずバーを落としてしまうものの、2跳目で成功させる。そし

て自己ベストとなる1m85に挑戦する。1、2跳目は強く踏み切れず、バーを落としてしまう。3跳目はバーより5cm以上高い跳躍を見せたが、足を残してしまい、バーを落としてしまう。結果1m80で4位であった。

結果走り高跳びでは5点を獲得した。小福田はこのまま調子を上げて七大戦の上位を狙ってもらいたい。荒井には早く得点争いに加われる実をつけてほしい。

13:00 男子やり投 決勝

葉梨(4年)、谷(3年)の出場。

四大戦はそこまでハイレベルな試合でもないのに、二人ともが上位に入賞することが期待されていた。

大会の開催場所が群馬と遠方であり、当日に移動をした選手には移動の疲れが見えていた。二人とも3投目までに葉梨42m04、谷55m62を投げ後半3投へと進む。後半、共にこれに近い距離を投げることはあったが、結局及ばず。二人とも移動の疲れが出たのかそれぞれこれが記録となった。結果、1位に谷、5位に葉梨となった。強い追い風が終始吹く中、1位と5位という結果が残り、東大の全体2位に貢献する形となっただろう。

13:00 女子やり投 決勝

楠木(3年)の出場。

気温は高過ぎないものの、やや強い風の吹く中での試合となった。専門ではないやり投で、投げれば獲得できる得点を逃さないための出場ではあったが、楠木にとってはファールを連発した前回の国公立戦の反省という意味もあった。しかし1投目から14m41と前回の最低記録を下回ってしまい、どうなることかと思われたが、2投目で18m55、3投目で20m49と徐々に記録を伸ばした。その後5投目で20m73を投げた。最終投擲では記録を伸ばせず、結局20m73の3位であった。昨年同じ試

合で出した自己記録には及ばなかった。前回の試合から多少の進歩はあったが、頼りない結果となった。楠木は他の女子選手と違って多種目出場することが少ないだけに、専門の投擲種目での実力をもっと身につけてほしい。

14:00 男子三段跳 決勝

武安(4年)、廣瀬(3年)の出場。晴れて気温が上がり、体の温まりやすい天候であったが、風が非常に強く、助走を合わせるのが難しい上、跳躍ほとんどが参考記録になってしまった。

廣瀬は右足小指の付け根辺りと右足首を痛めており、その影響が心配された。2跳目までに記録を残し、トップエイトに残ったが、3跳目から5跳目までは足の痛みによりパスをした。しかし、6跳目に今日のベストとなる13m72で4位となった。武安は今回はダブルアーム(両腕同時に振り出す跳躍方法)に挑戦した。しかし、足との連動がうまくいかなかったため、結局、今日唯一通常通りに跳んだ3跳目の13m96で3位となった。

武安はフォームを試行錯誤中であり、さらなるレベルアップを期待したい。廣瀬は故障を悪化させないよう、気をつける必要があるだろう。万全の態勢で七大戦に備えたい。

14:30 男子円盤投決勝

谷(3年)、原(2年)の出場。

晴れていて気温は高かったが、強い風が吹いていて、投げにも影響があると思われた。

対校は埼大を除く6人の出場ではあったが、東大の2人は他の4人と実力が少し開いていた。

原は練習投擲から自己ベストを越える投げで、1投目で25m92の自己ベストを出して、3投目までで5番。谷は調子がイマイチ出ず、3投目までで25m80の6番であった。4投目以降は2人共2種目目だったこともあって疲れてい

たか、記録は伸びず、原が25m92の5位、谷が25m80の6位で試技終了となった。

原は記録が順調に伸びているので、今後に期待したい。谷もこれを機に練習をするようなので、しっかり記録を伸ばしてほしい。

1.5 試合結果

第33回国立四大学対校陸上競技大会
第14回国立四大学対校女子陸上競技大会

於 正田醤油スタジアム (H20.6.14)

男子 100m 決勝 (+3.7)

1	櫛引亮	埼大	10.69
2	栗原諒	東学大	10.92
3	安部文隆	群大	10.93
4	福田篤	東大	11.01
5	宮本学	埼大	11.01
6	都井紘	東大	11.09
7	高畑大海	東学大	11.16
8	朝比奈達也	群大	11.72

男子 200m 決勝 (+3.8)

1	櫛引亮	埼大	21.65
2	福田篤	東大	22.09
3	高橋修平	東学大	22.10
4	鈴木英稔	埼大	22.18
5	福田雄介	群大	22.36
6	安部文隆	群大	22.58
7	舩島一樹	東大	22.76
8	中嶋祐輔	東学大	22.91

男子 400m 決勝

1	佐藤恒一	群大	48.65
2	小金沢篤	東学大	49.84
3	小福田大輔	東大	49.98
4	松野大樹	東学大	50.69
5	梶岡利之	東京大	51.16
6	増淵雄太	埼大	51.25

7	坂本光	埼大	51.27
8	岩木佑太	群大	52.75

男子 800m 決勝

1	坂井啓一	東大	1:58.32
2	清沢創一	東学大	1:58.60
3	渡邊拓也	東大	1:59.04
4	古井啓介	東学大	1:59.54
5	田山俊希	群大	1:59.65
6	小林弘樹	群大	2:00.10
7	桶田武	埼大	2:06.89
-	原聖人	埼大	DNF

男子 1500m 決勝

1	桶田武	埼大	4:06.63
2	竹俣直道	東大	4:07.46
3	星野慎也	群大	4:07.60
4	岡田達明	東学大	4:07.88
5	磯田秀弥	東学大	4:11.91
6	高橋優一	群大	4:20.21
7	石川恭平	東大	4:26.58

男子 5000m 決勝

1	竹俣直道	東大	16:01.63
2	齊藤隼人	東学大	16:04.85
3	小杉健	群大	16:12.84
4	橋本隼	東学大	16:13.24
5	須貝健一	埼大	16:13.51
6	角田圭	群大	16:18.92
7	山崎貴裕	東大	16:30.19
8	圓谷光大	埼大	16:45.26

男子 110mH 決勝 (+4.3)

1	秋山祐介	埼大	14.37
2	藤原泰裕	東学大	14.94
3	武井隼児	群大	15.06
4	尾崎翔	東大	15.30
5	坂本憲亮	東学大	15.53
6	清水堯之	群大	15.54
7	高野大樹	埼大	15.64
8	酒谷彰一	東大	15.68

男子 400mH 決勝

1	小金沢篤	東学大	53.29
2	長島貴之	東学大	53.64
3	武井隼児	群大	55.02
4	清水堯之	群大	55.11
5	田中勇孝	埼大	56.40
5	山田勝也	埼大	57.80
7	酒谷彰一	東大	58.67
8	門脇啓太	東大	59.24

男子 3000mSC 決勝

1	栗原龍太	東学大	9.36.87
2	三澤秀匡	群大	9.45.99
3	山口貴史	東学大	10.00.09
4	庄司健太	東大	10.09.03
5	樋上龍矢	埼大	10.10.23
6	梶井駿介	東京大	10.17.67
7	上治瑛	群大	11.18.43

男子 5000mW 決勝

1	山口貴史	東学大	22.26.75
2	村上格	東学大	22.33.61
3	今川智博	埼大	23.17.68
4	和田光一郎	東大	24.46.28
5	北沢太郎	東大	25.07.04
6	下田聖典	群大	25.41.52

男子 4 × 100mR 決勝

1	埼大	41.97
2	群大	42.01
3	東京大	42.97
(中嶋-福田-都井-尾崎)		
4	東学大	DSQ

男子 4 × 400mR 決勝

1	東学大	3.20.07
2	群大	3.21.92
3	東大	3.23.31
(小福田-梶岡-舩島-深澤)		
4	埼大	3.26.13

男子走幅跳決勝

1	藤原泰裕	東学大	7m39
2	尾崎翔	東大	7m33
3	福田雄介	群大	7m07
4	武安光太郎	東大	6m96
5	土屋真吾	東学大	6m60
6	山田一輝	埼大	6m46

男子三段跳決勝

1	藤原泰裕	東学大	15m49
2	山田一輝	埼大	14m05
3	武安光太郎	東大	13m96
4	廣瀬彬	東大	13m73
5	石塚理博	東学大	13m54
6	田中充	群大	13m32

男子走高跳決勝

1	遠藤哲哉	埼大	2m05
2	岩田康弘	埼大	2m00
3	土屋真吾	東学大	2m00
4	小福田大輔	東大	1m80
5	荒井博貴	東大	1m55
-	佐藤景祐	群大	NM
-	福田雄介	群大	NM

男子棒高跳決勝

1	田中充	群大	4m70
2	佐藤景祐	群大	4m20
3	大谷真人	東京大	4m00
4	谷村健宏	東学大	3m80
5	中嶋祐介	東学大	3m80
6	土居富裕	東大	2m80

男子砲丸投決勝

1	藤原康隆	東学大	13m58
2	秦知久	埼大	11m59
3	北川昂広	東大	10m18
4	村木瑞穂	群大	10m12
5	藤本深平	群大	10m06
6	石川淳太郎	東学大	10m03
7	原湖楠	東大	9m26

男子円盤投決勝

1	藤原康隆	東学大	35m19
2	小島聡	東学大	34m70
3	村木瑞穂	群大	32m91
4	佐藤景祐	群大	30m21
5	原湖楠	東大	25m92
6	谷彰一郎	東大	25m80

男子やり投決勝

1	谷彰一郎	東大	55m62
2	石川淳太郎	東学大	52m52
3	佐川太一	群大	52m12
4	秦知久	埼大	51m53
5	葉梨輝	東大	42m04
6	久保達也	群馬大	40m45
7	石川秀	東学大	40m36

男子トラック順位

1	東学大	83
2	東大	52
3	群大	52
4	埼大	48

男子フィールド順位

1	東学大	60
2	東大	42
3	群大	39
4	埼大	26

男子総合順位

1	東学大	143
2	東京大	94
3	群馬大	91
4	埼玉大	74

女子100m決勝(+7.2)

1	川口夢加	東学大	11.88
2	望月美希	埼大	12.09
3	内山由理	群大	12.15
4	五味未菜子	東学大	12.47
5	菱沼美穂	埼大	13.04
6	堀越彩香	東大	13.16
7	清水蘭	東大	13.29

女子200m決勝(+5.0)

1	川口夢加	東学大	24.70
2	望月美希	埼大	24.95
3	五味未菜子	東学大	26.13
4	内山由理	群大	26.32
5	堀越彩香	東大	27.52
6	清水蘭	東大	27.74
7	植野沙耶	群大	29.06

女子800m決勝

1	日下桃子	東大	2:20.99
2	小須田一恵	群大	2:21.71
3	上森加奈子	埼大	2:22.20
4	角入千明	東学大	2:23.21
5	黒澤理実	埼大	2:27.56
6	香川信子	東学大	2:29.49

女子1500m決勝

1	土井友理永	東学大	4:48.90
2	廣江早紀	東学大	4:55.35
3	狩野温子	群大	5:03.73
4	青木香菜	埼大	5:10.69
5	浅岡友美	群大	5:20.07
6	鈴木恵美里	東大	5:46.44

女子3000m決勝

1	田島香織	東学大	10:17.49
2	狩野温子	群大	10:26.75
3	青木香菜	埼大	10:47.30
4	竹林由香	東学大	11:18.75
5	千葉麻里子	群大	11:55.66
6	鈴木恵美里	東大	12:50.39

女子100mH決勝(+3.4)

1	中島はるみ	埼大	15.19
2	河原真弥	東学大	15.40
3	田上瑞穂	東学大	16.40
4	大久保渥子	東大	17.44

女子4×100mR決勝

1	東学大	47.91
2	埼大	50.67
3	群大	52.77
4	東大	52.78

(清水-堀越-高山-大久保)

女子走幅跳決勝

1	田澤愛	東学大	5m40
2	廣川美沙紀	群大	5m39
3	吉野真央	群大	5m14
4	堀越彩香	東大	4m91
5	松本早由希	埼大	4m79
6	高山花子	東京大	4m67

女子砲丸投決勝

1	河原真弥	東学大	10m71
2	佐藤祥	東学大	10m35
3	楠木千尋	東大	7m55

女子やり投決勝

1	岡野愛美	東学大	38m70
2	鵜生川早紀	東学大	38m51
3	楠木千尋	東京大	20m73

女子トラック順位

1	東学大	29
2	埼玉大	19
3	群馬大	9
4	東京大	4

女子フィールド順位

1	東学大	25
2	東京大	2
3	群大	2
4	埼大	1

女子総合順位

1	東学大	44
2	埼玉大	20
3	群馬大	11
4	東京大	6

2 2008年度部内5傑 2008.6.15現在

男子 100m

1	福田篤(4年)	11"20(+1.7)	4.20
2	都井紘(3年)	11"30(+1.4)	5.4
3	藤本元太(5年)	11"50(-0.6)	4.5
4	中嶋毅彰(3年)	11"61(-0.5)	5.31
5	深澤真楠(4年)	11"64(不明)	5.6

男子 200m

1	肱島一樹(1年)	23"19(+0.0)	5.31
2	福田篤(4年)	23"34(-0.1)	5.31
3	都井紘(3年)	23"66(-1.2)	5.4
4	春日慶輝(1年)	24"56(-0.3)	5.6
5	水上雄太(2年)	24"64(+0.0)	5.26

男子 400m

1	兵頭直弥(2年)	49"83	4.5
2	小福田大輔(4年)	49"98	6.14
3	深澤真楠(4年)	50"41	5.4
4	梶岡利之(4年)	51"16	6.14
5	肱島一樹(1年)	52"00	5.17

男子 800m

1	渡邊拓也(2年)	1'56"01	4.5
2	川口祐貴(3年)	1'58"30	5.5
3	坂井啓一(3年)	1'58"32	6.14
4	須田遊人(3年)	2'03"04	5.5
5	横田祥(3年)	2'03"19	5.5

男子 1500m

1	竹俣直道(2年)	4'07"46	6.14
2	坂井啓一(3年)	4'09"84	5.5
3	割沢高行(6年)	4'11"22	4.5
4	石川恭平(3年)	4'14"24	5.5
5	千徳恒憲(4年)	4'15"76	5.5

男子 5000m

1	竹俣直道(2年)	15'21"19	5.31
2	山田健太郎(3年)	15'25"12	4.20
3	山崎貴裕(3年)	15'27"42	5.5
4	東大貴(1年)	15'43"72	5.31
5	梅井駿介(4年)	15'46"03	4.20

男子 110mH

1	酒谷彰一 (2年)	15"83(+0.3)	5.17
2	尾崎翔 (4年)	16"17(+0.0)	5.31
3	増本健太郎 (2年)	16"49(+1.0)	5.6
4	堀内 敦史 (4年)	17"21(+1.8)	5.3
-	原湖楠 (2年)	19"44(+1.3)	3.23

男子 400mH

1	深澤真楠 (4年)	55"54	5.24
2	赤木裕 (2年)	58"62	6.01
3	酒谷彰一 (2年)	58"67	6.14
4	門脇啓太 (4年)	59"24	6.14
5	江間輝裕 (2年)	59"41	6.14

男子 3000mSC

1	山口健介 (8年)	10'04"74	4.5
2	庄司健太 (2年)	10'09"03	6.14
3	山崎貴裕 (3年)	10'16"86	4.5
4	梶井駿介 (4年)	10'17"67	6.14
5	鳶田洸一 (2年)	10'41"01	4.5

男子 5000mW

1	和田光一郎 (4年)	24'46"28	6.14
2	北沢太郎 (4年)	25'07"04	6.14

男子 10000mW

1	菅野雄大 (5年)	48'25"94	5.18
2	北沢太郎 (4年)	48'39"79	5.18
-	和田光一郎 (4年)	47'39"28	3.23

男子 走幅跳

1	尾崎翔 (4年)	7m25	5.25
2	武安光太郎 (3年)	7m19	5.25
3	廣瀬彬 (3年)	6m68	5.6
4	西田昂広 (2年)	6m66	4.5
5	浅沼達也 (3年)	5m82	5.3

男子 三段跳

1	武安 光太郎 (4年)	14m01	5.17
2	倉員 智瑛 (5年)	13m82	4.5
3	廣瀬 彬 (2年)	13m80	4.5
-	西田昂広 (2年)	13m26	3.23
-	定金駿介 (2年)	12m77	3.23

男子 走高跳

1	小福田大輔 (4年)	1m80	6.14
2	荒井博貴 (3年)	1m55	6.14
-	原湖楠 (2年)	1m45	3.22

男子 棒高跳

1	大谷真人 (4年)	4m40	4.20
2	原湖楠 (2年)	3m10	5.31
3	土居富裕 (1年)	2m90	5.31

男子 砲丸投

1	北川昂広 (4年)	10m23	4.5
2	原湖楠 (2年)	9m26	6.14
3	寺島孝明 (3年)	8m85	5.31

男子 円盤投

1	谷彰一郎 (3年)	27m10	4.5
2	原湖楠 (2年)	25m92	6.14

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (3年)	40m59	5.6
2	千葉伸宏 (2年)	30m67	6.14

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (3年)	59m24	5.6
2	葉梨輝 (4年)	42m76	4.5
3	原湖楠 (2年)	39m92	5.31
4	北川昂広 (4年)	33m36	5.31
5	杉山聡 (1年)	27m10	6.14

男子 十種競技

-	原湖楠 (2年)	4127点	3.22-23
---	----------	-------	---------

女子 100m

1	清水 蘭 (3年)	13"77(+1.9)	4.5
2	大久保 渥子 (3年)	14"12(+0.2)	5.4
3	高山花子 (2年)	14"36(+1.2)	5.31
4	楠木千尋 (3年)	14"82(+0.8)	4.13
-	日下桃子 (3年)	14"56(+0.0)	3.23

女子 400m

1	日下 桃子 (3年)	62"37	5.31
2	楠木千尋 (3年)	67"15	5.31

女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'20"99	6.14
---	------------	---------	------

女子 1500m

1	鈴木恵美里 (1年)	5'46"44	6.14
---	------------	---------	------

女子 3000m

1	鈴木恵美里 (1年)	12'43"59	5.31
---	------------	----------	------

女子 走幅跳

1	高山 花子 (2年)	4m41	5.6
---	------------	------	-----

女子 砲丸投

1 楠木 千尋 (2年) 7m57 4.5

女子 ハンマー投

1 楠木 千尋 (2年) 22m68 5.6

女子 やり投

1 楠木 千尋 (2年) 20m73 6.14

3 自己記録更新者一覧 2008.6.2~6.15

6/14 四大戦 (正田醤油スタジアム群馬)

400m	小福田大輔 (4年)	49"98
800m	坂井啓一 (3年)	1'58"32
3000mSC	庄司健太 (2年)	10'09"03
3000mSC	梶井駿介 (4年)	10'17"67
5000mW	北沢太郎 (4年)	25'07"04
砲丸投	原湖楠 (2年)	9m26
円盤投	原湖楠 (2年)	25m92

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

6/14(土)に群馬県営正田醤油スタジアム群馬(旧称敷島競技場)にて行われました四大戦の応援に駆けつけて下さったOB・OGのご氏名を卒業年度順に報告致します。(敬称略)

1983年卒 八田 秀雄
 1994年卒 工藤 麻衣子
 1996年卒 寺嶋容明
 2007年卒 片岡哲朗
 2008年卒 石原宏尚
 2008年卒 月崎竜童

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2 OB戦について

前回の部便りにてお知らせいたしました通り、第4回T・Kマスタース交流会および懇親会の出欠のご連絡を引き続き承ります。

前回同封の葉書か、メールにて学生主務までお知らせ下さい。よろしくようお願い申し上げます。

4.3 行事予定

- OB戦・懇親会
7/5(土) 駒場
- 七大戦
8/2,3(土,日) 宮城野原競技場
- 一橋戦
9/6(土) 駒場
- 京大戦
10月上旬 西京極
- 箱根駅伝予選会
10月18日 立川

4.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL:03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail: seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:小福田大輔

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩3-5-13

TEL:090-8046-2117

FAX:03-3673-5819

E-mail: swe-ep-red19@hotmail.co.jp

主務 小福田大輔

文責:田中裕一郎